

念仏無間地獄事

文永元年九月 四三歳

所詮念仏しよせんを無間地獄と云ふ義ぎに二有り。一には念仏者を無間地獄とは、日本国一切の念仏衆ぼんしゆの元祖げんそ法然上人ほつねん ぜんじんの選せん集しゆに、浄土三部を除きてより以外一代の聖教、所謂法華經・大日經・大般若經等の一切大小の經を書き上げて「捨しゃ閉へい閣かく拋たう」等云云。之に付きて上人じやうじんの龜鏡ききやうと挙げられし処の浄土の三部經の其の中に、双觀經そうかんぎやうに阿彌陀仏の因位、法藏比丘ほつぞう びくの四十八願ただ びぼうに云はく「唯五逆と誹謗正法とを除く」云云。法然上人も乃至十念の中には入れ給ふといえども、法華經の門を閉じよと書かれて候へば、阿彌陀仏の本願もに漏れたる人に非ずや。其の弟子其の檀那等も亦以て此くの如し。法華經の文には「若し人信ぜずして乃至其の人命終して阿鼻獄に入らん」云云。阿彌陀仏の本願と法華經の文と眞実ならば、法然上人は無間地獄に墮ちたる人に非ずや。一切の經の性相に定めて云はく「師墮おつれば弟子墮つ、弟子墮つれば檀那墮つ」云云。譬へば謀叛むほんの者の郎従等の如し。御不審有らば選集ひけんを披見あるべし。二には念仏を無間地獄とは法華經の序文無量義經に云はく「方便力を以て、四十余年には未だ眞実を顯はさず」云云。次下の文に云はく「無量無辺を過ぐるとも乃至終ついに無上菩提を成ずることを得じ」云云。仏初成道の時より白鷺池の辺りに至るまで年紀ねんきをあげ、四十余年と指して其の中の一切經を挙ぐる中に大部の經四部、其の四部の中に「次に方等十二部經を説く」云云。是念仏者の御信用候三部經なり。此を挙げて眞実に非ずと云云。次に法華經に云はく「世尊の法は久しくして後かなら要かならず当に眞実を説くべし」とは念仏等の不眞実に対し南無妙法蓮華經を眞実と申す文なり。次下に云はく「仏自ら大乘に住したまへり乃至若し小乗を以て化すること乃至一人に於てもせば我即ち慳貪けんどんに墮せん。此の事は為めて不可なり」云云。此の文の意は法華經を仏胸むねに秘しおさめて、觀經念仏等の四十余年の經計りを人々に授けて、法華經を説かずして黙止するならば、我は慳貪の者なり、三惡道に墮すべしと云ふ文なり。仏すら尚唯念仏を行じて一生をすごし、法華經に移らざる時は地獄に墮すべしと云云。況んや末代の凡夫、一向に南無阿彌陀仏と申して一生をすごし、法華經に移りて南無妙法蓮華經と唱へざる者、三惡道まぬかを免るべきや。第二の卷に云はく「今此三界こん し さんがい」等云云。此の文は日本国六十六箇国島二つの大地は教主釈尊の本領なり。娑婆以て此くの如く全く阿彌陀仏の領に非ず。「其中衆生悉是吾子ごちゆうしゆじやうしつぜごし」云云。日本国の四十九億九万四千八百二十八人の男女、各父母有るといへども、其の詮を尋ぬれば教主釈尊の御子なり。三千余社の大小の神祇じんぎも釈尊の御子息なり。全く阿彌陀仏の子には非ず。

文永元年九月 日

日 蓮 花 押